

鳥取東高等学校 101 回目の創立記念日を迎えて

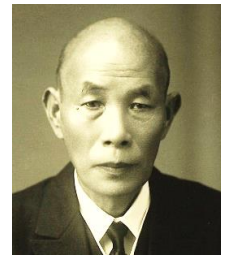


初代校長 林 重浩 先生

今から 101 年前の 1922 年 6 月 20 日に、本校の前身である鳥取県立鳥取第二中学校（略して鳥取二中）の開校許可が出され、その後、6 月 23 日を本校の創立記念日としてきています。

大正時代、中学校で学びたいという生徒の数が急増したのですが、当時の鳥取県には新しい中学校を建てるお金がなかったそうです。それを解決したのが、今の岩美町大岩出身で水産業で財をなした徳田平市氏と、当時の鳥取中学、今の鳥取西高校の校長であった林重浩先生のお二人でした。

林先生は、学校設置のために必要な寄付を徳田氏に依頼し、依頼を受けた徳田氏は、郷土の若者を育てるためならという思いから多額の寄付を決意されました。これは故郷に対する恩返しでもあります。近年、ふるさと教育の重要性が言われるようになりました。皆さんの多くが高校卒業後は県外に出、そのまま県外で生活する人が多いでしょう。その時、生まれ育った故郷に、どういう形で恩返しをするか、これから続く一生の中で、心の片隅に置いておいて欲しいと思います。



校祖 徳田 平市 氏

本校で学ぶ意味、それを考える時、東高生の誇り、ということを思い浮かべます。それは、林先生が示された建学の精神である「克己」「親和」「進取」の三つの精神の実践だと思います。近年、高校生が勉強しなくなったと言われます。「学びへの飢え」が新しい学校を生み出したはずなのに、豊かな社会の中で、いつの間にか、その情熱が薄らいできているように思います。情熱を持ち続け、様々なことに果敢に取り組み、自分を大切にしつつ仲間への思いやりも忘れない、そういう生き方を貫くことが、東高生の誇りではないか、と思います。

百年前の入学生達は、大正デモクラシーの薫陶を受け自由な校風をむねとした鳥取二中を進学先として選んだこと、ここで過ごした5年間の学校生活を誇りに、地元鳥取は元より日本で時には世界で活躍しました。皆さんもやがて同窓生の一人になり、それぞれが人生という足跡を残していくことでしょう。どう生きるか、



昭和 12 年頃の登校風景

それは、皆さん次第なのですが、今はただひたすら日々の学校生活を大切にして、勉強、部活、学校行事に全力で向かってきて下さい。その積み重ねが自信となり自分の生きる道標となっていくことでしょう。そうした東高を皆さんがますます大好きになってくれることを切に願っています。

令和5年6月23日
鳥取東高等学校長